

## 2013年 ワシントン柔道クラブ・海軍士官学校訪問

塚田真希

2013年4月22日から5月4日の約2週間、アメリカでの柔道指導の機会を頂き、ジョージタウン大学ワシントン柔道クラブとアナポリスにある海軍士官学校で柔道指導を行った。

ワシントン柔道クラブは、週に月・水・金と練習があり、ジョージタウン大学の学生をはじめ、一般の参加者まで幅広い分野の人が一緒に汗を流すアットホームな雰囲気柔道クラブであった。主な活動内容は、練習時間の一部を技の講習にあててもらい、そこで自分の技を披露、説明する形であった。その後は、乱取り稽古に参加し一緒に汗を流した。クラブの会員の大半が、仕事を持ち、仕事の後に練習に来るわけだが、その仕事の肩書が弁護士や、外交官などの人たちもいて、その幅の広さが印象的だった。技の説明を行った際、大変熱心に聞いてくれて、とてもありがたく感じた。こちらの動きを細かく分析し、どうやっているのか質問を受けたが、考えたこともなかったことだったので、説明に戸惑った部分があった。私自身が技を習得した環境とこちらの環境は全く違うので、そのあたりを頭に入れ、どのように説明した方がいいのか考えるいい機会になった。柔道を行っている人の目的に応じて指導をしていくことの大切さを、海外研修を経て学ぶことができている。

二週目の火曜日と木曜日には、アナポリスにある海軍士官学校の練習に参加してきた。こちらの学校は、月曜日から金曜日まで週5回練習を行っている学校である。学校の道場には、初回に井上康生先生が訪問された時の写真が飾られており、それがきっかけで同好会からクラブが正式な部になった。その後、片淵一真氏、大川康隆氏が、柔道指導に訪れており、彼らに指導してもらった学生が残っており、熱心に柔道の稽古に励んでいた。授業終了時刻と練習開始時刻の合間が短く、学生は走って移動するのが当たり前で、練習開始時間も人の集まりによって開始されるので流動的だった。先に道場に到着して練習が始まるまで待機している学生がいたので、二回目の練習の時には、一人打ち込みのやり方とポイントを説明した。限られた時間の中で、相手がいない状況でも技の習得が可能だということを伝えたかったからである。受け取る側によっては、退屈と思われがちな練習方法だが、興味深く聞いてくれ、学生の一部からは、これからも続けてみるという言葉もらった。体力も旺盛で、練習環境も大変恵まれている海軍士官学校の学生たちが、活躍してくれることを心から願うとともに、このような交流に参加できたことを大変光栄に思う。

この研修を通して色々な経験ができたこと、また、アメリカの文化に触れ、充実した時間を過ごすことができたのは、滞在中にお世話になった古森義久様、古森スーザン様のおかげである。今回のワシントン柔道クラブ、海軍士官学校への訪問に携わり支援してくださった方にも大変なご配慮を頂いた。最後に、このような機会を与えて頂いたことに、感謝すると同時に、この交流がいつまでも続いてくれることを願う。



海軍士官学校での集合写真



ワシントン柔道クラブでの集合写真